SkyVisualEditor

SkyVisualEditor Ver.23.0
リリースノート

リリース日：2025 年 7 月 20 日

目次

はじめに 3
1 リリース内容 4
1.1 SkyVisualEditor LC の新機能 4
1.1.1 予実テーブル：予実値の縦軸表示機能を追加 4
1.1.2 予実テーブル：期間別の合計列表示機能を追加 5
1.1.3 予実テーブル：条件付き書式機能による強調表示が可能に 6
1.1.4 フレキシブルデータテーブル：範囲貼り付け編集に対応 7
1.1.5 フレキシブルデータテーブル：テキストエリア、ロングテキストエリアの編集に対応 8
1.1.6 フレキシブルデータテーブル：新規行の一括追加機能 9
1.1.7 重要な更新 フレキシブルデータテーブル：未編集の新規行を保存対象から除外 10
1.1.8 フレキシブルデータテーブル：Experience Cloud での利用に対応 11
1.1.9 フレキシブルデータテーブル：性能改善による表示速度向上 11
1.2 SkyVisualEditor VF の新機能 12
1.2.1 手書き項目：文字列の配置機能を追加 12
1.2.2 手書き項目：マスキングツールを追加 14
1.2.3 手書き項目：保存済画像への書き足しに対応 15
1.2.4 手書き項目：ファイル（Salesforce Files）に対応 16
1.2.5 手書き項目：参照画像に合わせた自動リサイズ機能 17
1.2.6 手書き項目：関連リストからアップロードされた画像の参照に対応 18
1.2.7 手書き項目：ツール設定の非表示化とデフォルト値設定 19
1.2.8 カスタムルックアップ画面：カンマ区切りによる OR 条件検索に対応 20
2 お客様へのご案内 21
2.1 活用ガイド「SkyVisualEditor Navi」のご案内 21
3 免責事項 21

はじめに

本リリースノートでは、SkyVisualEditor の主要な新機能や、既存機能の機能強化に関する概要情報を提供します。

既存の環境に影響を与える可能性のある更新について

- 本リリースノートには、ご利用中の環境に影響を与える可能性のある新機能および機能強化が含まれています。これらの項目には、見出しに 重要な更新 マークが付与されています。
  対象の機能をご利用の場合は、ご利用中の画面への影響について、十分なご確認をお願いいたします。

より詳細な情報については、リリース時に公開予定のヘルプサイトをご参照ください。

ヘルプサイト

SkyVisualEditor ポータル：https://d.terrasky.jp/SkyVisualEditorUserGuide
SkyVisualEditor VF：https://d.terrasky.jp/SkyVisualEditorVFUserGuide
SkyVisualEditor LC：https://d.terrasky.jp/SkyVisualEditorLCUserGuide

1 リリース内容

1.1 SkyVisualEditor LC の新機能

SkyVisualEditor LC の新機能は、以下のとおりです。

1.1.1 予実テーブル：予実値の縦軸表示機能を追加

予実テーブルで予実値を表示する際、これまでは横軸表示のみでしたが、縦軸表示も可能になりました。「部門別の業績確認など、特定数値（計画、実績、達成率など）を1行で確認したいため、縦軸で表示」「KPI モニタリングなど、各行毎に分析対象が細かく分かれているため、横軸で表示」のように、用途に応じて表示設定から切り替えられます。

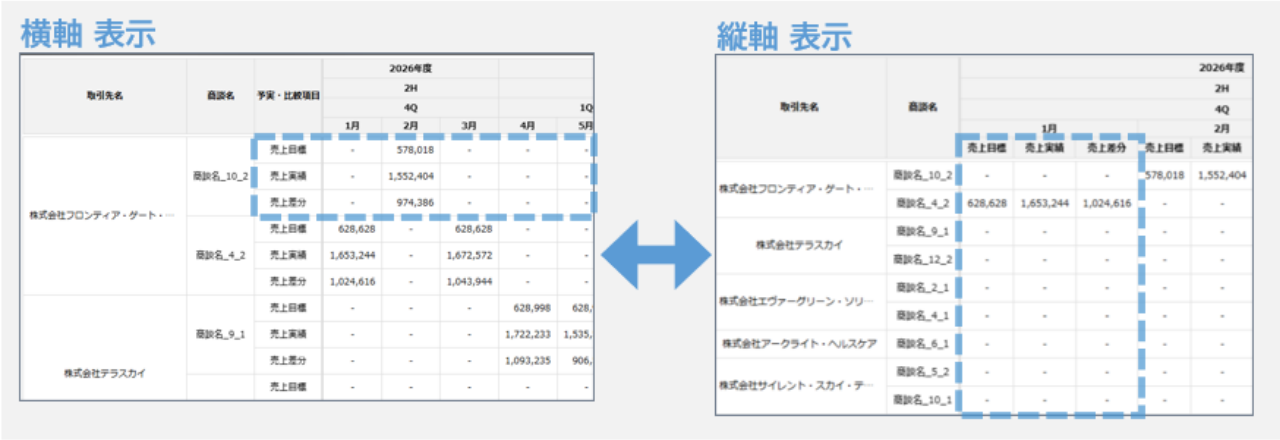
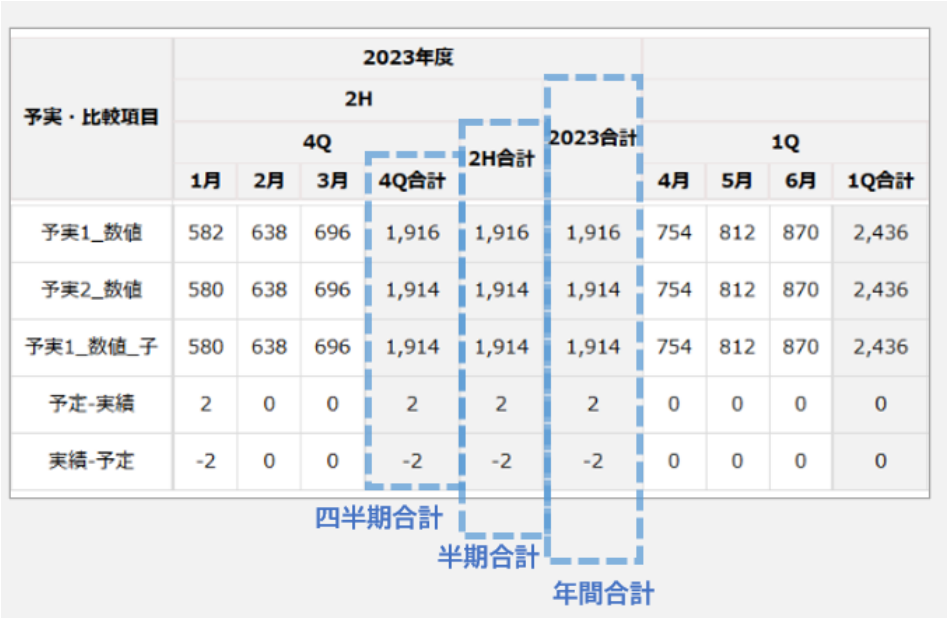


図 1.1.1-1 Salesforce 上の予実テーブルの横軸と縦軸表示例

図 1.1.1-2 予実テーブルの表示設定における横軸と縦軸の切り替え設定箇所

1.1.2 予実テーブル:期間別の合計列表示機能を追加

予実テーブルにおいて、四半期・半期・年間といった期間別の合計列が表示可能になりました。
これにより「各期間別の目標達成率」などが簡単に確認できるようになります。
合計列を表示する対象期間は、予実テーブルの表示設定から指定可能です。



予実・比較項目	2023年度									
	2H						1Q			
	4Q				2H合計	2023合計				
	1月	2月	3月	4Q合計			4月	5月	6月	1Q合計
予実1_数値	582	638	696	1,916	1,916	1,916	754	812	870	2,436
予実2_数値	580	638	696	1,914	1,914	1,914	754	812	870	2,436
予実1_数値_子	580	638	696	1,914	1,914	1,914	754	812	870	2,436
予定-実績	2	0	0	2	2	2	0	0	0	0
実績-予定	-2	0	0	-2	-2	-2	0	0	0	0

図 1.1.2-1　Salesforce 上の予実テーブルの各期間別の合計列表示例

図 1.1.2-2　予実テーブルの表示設定における合計列の対象期間指定例

1.1.3 予実テーブル:条件付き書式機能による強調表示が可能に

予実テーブルに条件付き書式機能が追加され、任意の書式ルールに基づいて、予実値や合計値の背景色、文字色を変更し、強調表示が可能になりました。
例えば「販売計画達成率が 100%以上の場合に強調表示」など、多様な書式設定により、進捗状況を直感的に把握できます。

予実・比較項目	2024年度				
	2H				
		4Q			
	3Q合計	1月	2月	3月	4Q合計
金額	-	1,229,184	5,382,948	3,840,426	10,452,558
積み上げ集計	-	7,080,000	10,439,760	14,450,736	31,970,496
延期数	-	0	0	0	0

図 1.1.3-1 Salesforce 上の予実テーブルの書式設定による強調表示例

図 1.1.3-2 予実テーブルの書式ルール編集画面の特徴

1.1.4 フレキシブルデータテーブル:範囲貼り付け編集に対応

フレキシブルデータテーブルで[Ctrl+V]キー入力により、範囲貼り付け編集が可能になりました。
貼り付け元データはタブ区切りに対応しているため、Excel シートからコピーして、そのままフレキシブルデータテーブルに貼り付けることができます。
新規行、既存行の双方に項目値を貼り付け可能です。1回の貼り付け上限範囲は最大 500 行×200 列です。
貼り付け失敗時には、原因を明確に示すエラーが表示され、容易に修正できます。

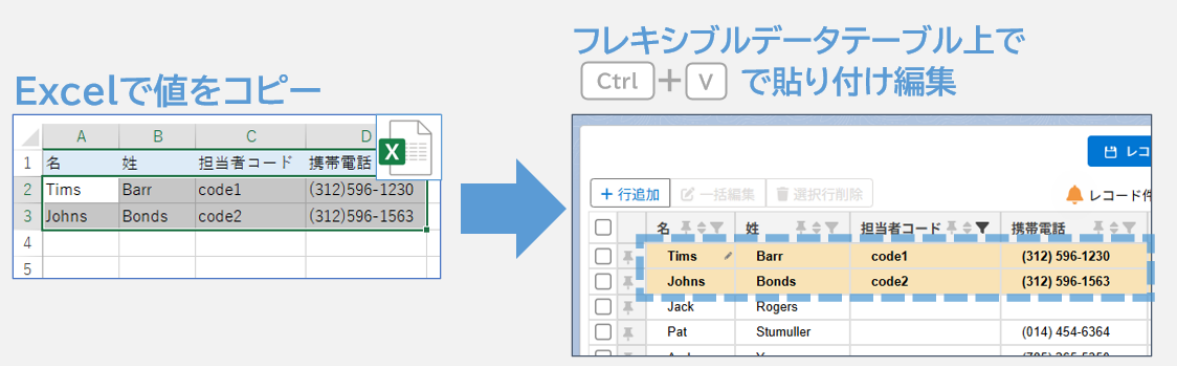


図 1.1.4-1 Salesforce 上のフレキシブルデータテーブルにおける範囲貼り付け編集イメージ

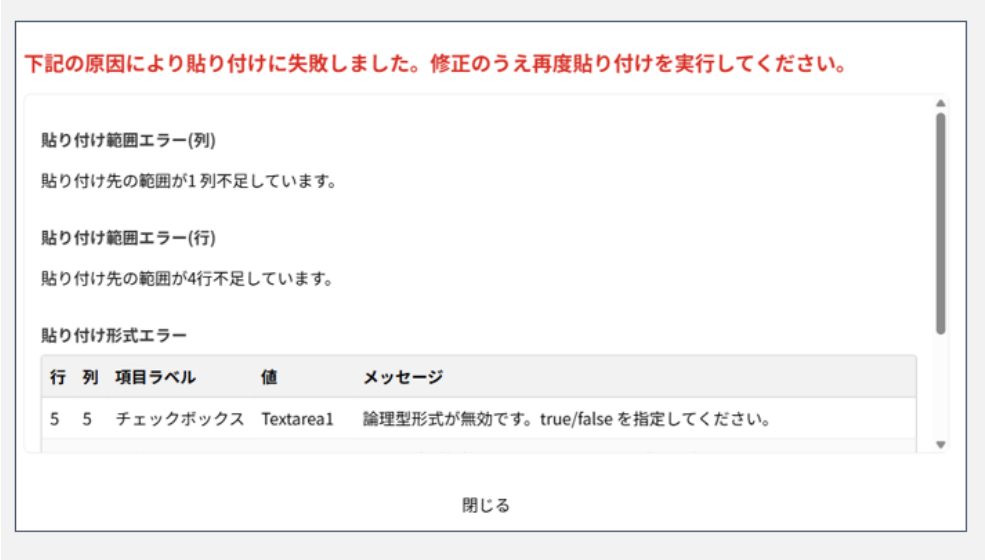


図 1.1.4-2 範囲貼り付けに失敗した際の詳細なエラー表示例

1.1.5 フレキシブルデータテーブル：テキストエリア、ロングテキストエリアの編集に対応

フレキシブルデータテーブルでテキストエリア、ロングテキストエリアが編集可能になりました。
インライン編集、一括編集に加え、本バージョンで追加された範囲貼り付け編集にも対応しています。
インライン編集時はスクロール可能な専用入力部品で表示され、文字数カウントと文字数上限チェックも自動実行されるため、保存前の文字数確認が容易です。

図 1.1.5-1 Salesforce 上のフレキシブルデータテーブルにおけるテキストエリア項目の編集例

1.1.6 フレキシブルデータテーブル:新規行の一括追加機能

フレキシブルデータテーブルで、新規行の追加時に選択リストから行数を選択し、複数行を一括で追加できるようになりました。
範囲貼り付け編集機能と組み合わせることで、「100 件の新規行を一括追加後、Excel からデータを貼り付けて編集する」といった効率的な活用が可能です。

図 1.1.6-1 Salesforce 上のフレキシブルデータテーブルにおける新規追加行数の選択

1.1.7 重要な更新 フレキシブルデータテーブル:未編集の新規行を保存対象から除外

フレキシブルデータテーブルにおいて、保存時まで未編集の新規行があった場合、保存実行時の挙動が下記の通り変更となります。

Ver.22.0 まで: 未編集の新規行も保存対象となる
Ver.23.0 から: 未編集の新規行は保存対象から自動的に除外される

この変更により、範囲貼り付け編集機能との併用時、「貼り付け範囲の件数は未確定だが、未編集行が残っても問題ないため、仮に 200 件分の行を追加する」といった柔軟な利用が可能になります。
また、この変更に伴い、保存時の確認ダイアログが詳細化され、変更内容がより明確に表示されます。

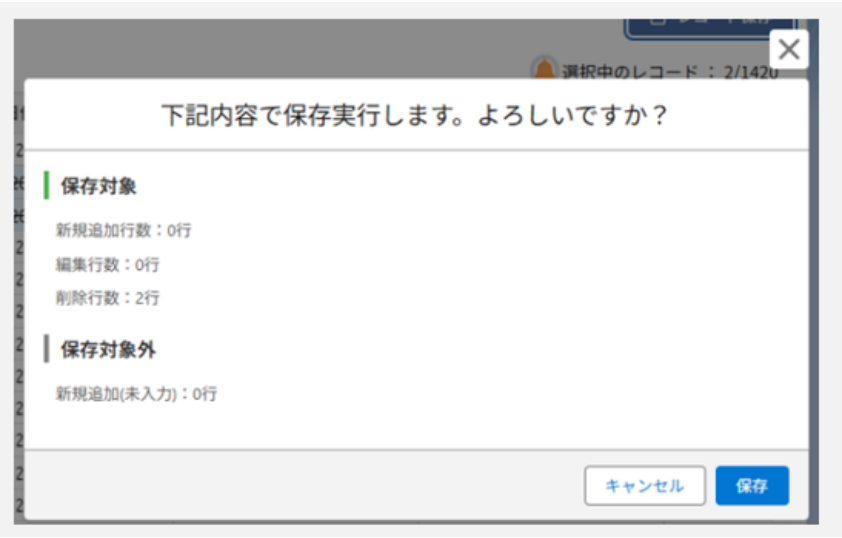


図 1.1.7-1 Salesforce 上のフレキシブルデータテーブルにおける保存時の確認ダイアログ

1.1.8 フレキシブルデータテーブル：Experience Cloud での利用に対応

フレキシブルデータテーブルが Salesforce の Experience Cloud で使用可能になりました。
これにより従業員・顧客・販売店・協力会社など、フレキシブルデータテーブルの利用ユーザーおよび業務用途が拡大します。

1.1.9 フレキシブルデータテーブル：性能改善による表示速度向上

フレキシブルデータテーブルの性能が向上し、大量レコードをより高速に表示可能になりました。
改善度はご利用環境や設定に依存しますが、当社検証では 1.5 倍～3 倍程度の向上を確認しています。

1.2 SkyVisualEditor VF の新機能

SkyVisualEditor VF の新機能は、以下のとおりです。

1.2.1 手書き項目:文字列の配置機能を追加

手書き項目に文字入力ツールが追加され、任意の文字列を任意のサイズで配置可能になりました。
図面を背景画像として設定し、小さな文字でメモ書きを追加する場合などに活用できます。

図 1.2.1-1 手書き項目の文字入力ツールの使用例

図 1.2.1-2 手書き項目のツール設定ダイアログにおける文字入力ツールと文字サイズの指定

また、特定の文字のみを配置したい場合は、Studio のプロパティ設定で選択リスト形式を活用できます。

図 1.2.1-3 Studio のプロパティ設定から選択リスト形式に切り替える例

1.2.2 手書き項目:マスキングツールを追加

手書き項目にマスキングツールが追加され、ドラッグ操作により任意サイズの四角形を配置可能になりました。
手書き画像上の機密情報のマスキングや、図面への直線追加などに活用可能です。

図 1.2.2-1 Salesforce 上の手書き項目においてドラッグ操作で四角形を配置するイメージ

図 1.2.2-2 手書き項目のツール設定ダイアログにおけるマスキングツールの指定

1.2.3 手書き項目:保存済画像への書き足しに対応

手書き項目に「書き足し」ボタンが追加され、保存済の手書き画像の上から書き足しが可能になりました。保存後に書き込み情報の不足に気づいた場合でも、本機能で対応できます。
Studio 上の手書き項目のプロパティから、書き足しボタンを表示/非表示を切り替え可能です。

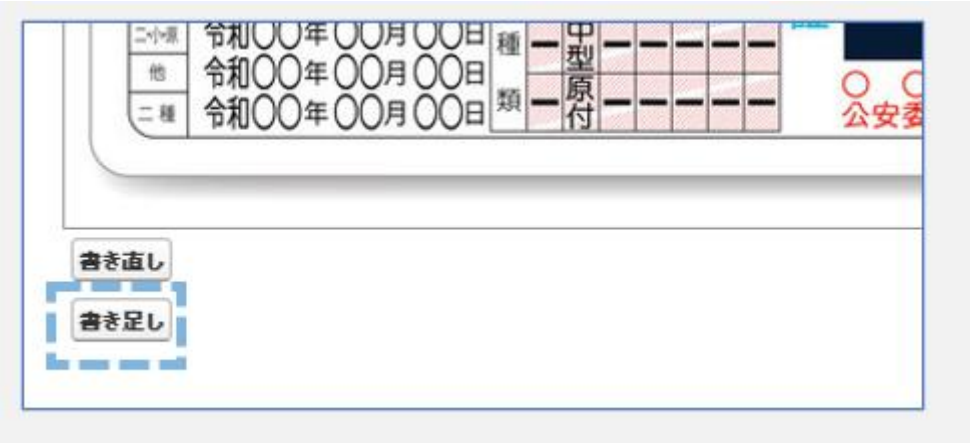


図 1.2.3-1 Salesforce 上の手書き項目における書き足しボタン

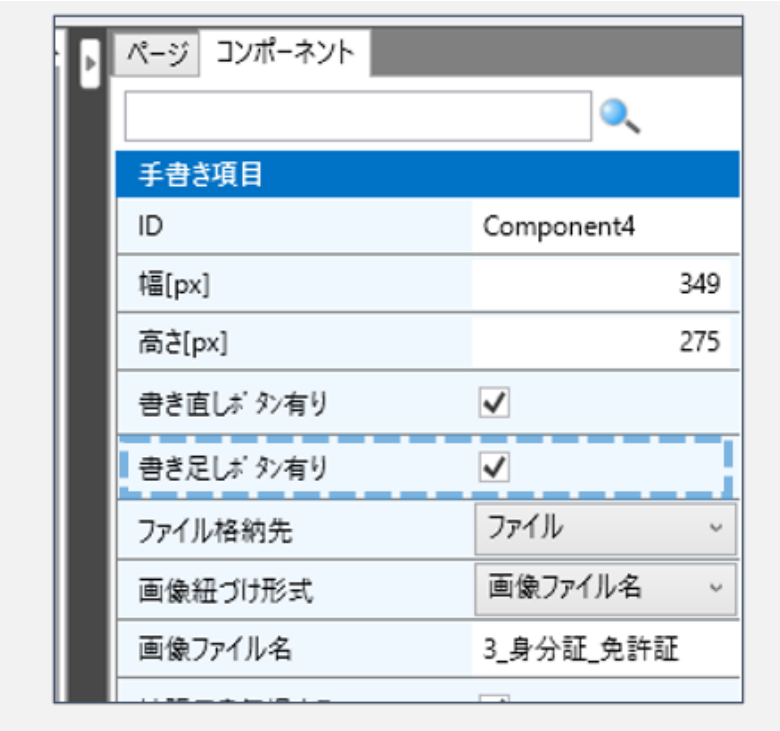


図 1.2.3-2 Studio 上のプロパティにおける書き足しボタンの表示/非表示設定

1.2.4 手書き項目:ファイル(Salesforce Files)に対応

従来の「メモ＆添付」に加え、Lightning Experience 標準の「ファイル」形式での手書き画像取り扱いに対応しました。
「メモ＆添付」は Salesforce 公式で非推奨となっています。手書き項目をご利用のお客様は「ファイル」への移行をご検討ください。
Studio 上の手書き項目のプロパティから「メモ&添付」と「ファイル」の切り替えが可能です。

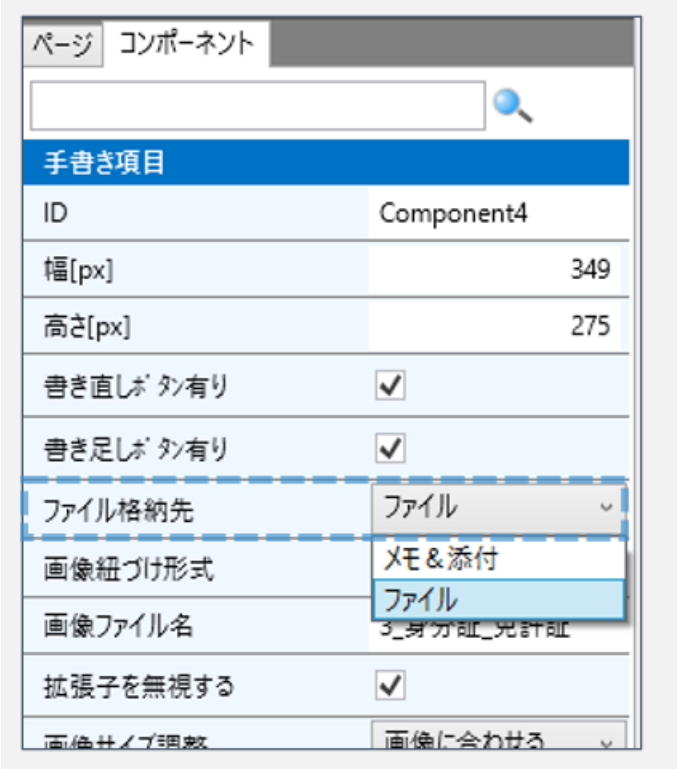


図 1.2.4-1 Studio 上のプロパティにおける「メモ&添付」と「ファイル」の切り替え

1.2.5 手書き項目:参照画像に合わせた自動リサイズ機能

手書き項目が参照する画像の原寸サイズに合わせて、手書き項目の大きさを自動調整できるようになりました。
これにより、「Salesforce 上で管理している画像サイズが不揃いでも、それぞれのサイズに合わせた手書き入力を実行する」といった要件に対応可能です。

⚠ 注意

- Salesforce のデータサイズ上限により、過大な画像サイズでは書き込みエラーが発生する場合があります。その際は Studio のプロパティ設定で上限サイズを調整し、エラーを回避してください。

図 1.2.5-1 Studio 上のプロパティにおけるサイズ調整の設定と、Salesforce 上での表示イメージ

1.2.6 手書き項目:関連リストからアップロードされた画像の参照に対応

これまで、手書き項目は Salesforce 上の画像ファイル名と ID が一致しないと参照できませんでした。そのため、関連リストなど手書き項目以外からアップロードされた画像を参照するには、ファイル名の変更が必要でした。
本機能追加により、手書き項目が参照する画像を「ファイル名昇順」または「固定ファイル名指定」で紐づけ可能になりました。
Studio のプロパティ設定のみで柔軟な画像ファイルとの紐付けが可能となり、手書き項目の活用範囲が拡大します。

図 1.2.6-1 Salesforce 上で手書き項目と画像ファイルを名前昇順で動的に紐づけるイメージ

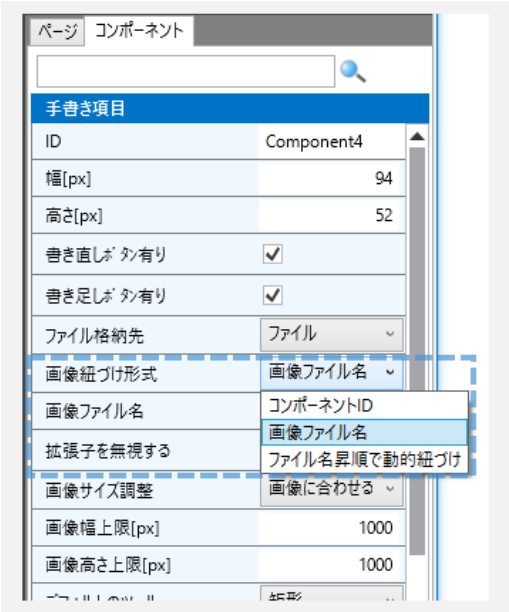


図 1.2.6-2 Studio 上のプロパティおける画像紐づけ形式の設定

1.2.7 手書き項目:ツール設定の非表示化とデフォルト値設定

手書き項目でペンや消しゴムなどを切り替える際に使用するツール設定において、ツール設定ボタンを非表示にできるようになり、またデフォルト値の設定が可能となりました。
これにより、「特定のツールのみをユーザーに利用させたい」といった要件に対し、デフォルト値を設定した上でツール設定ボタンを非表示にすることで対応できます。

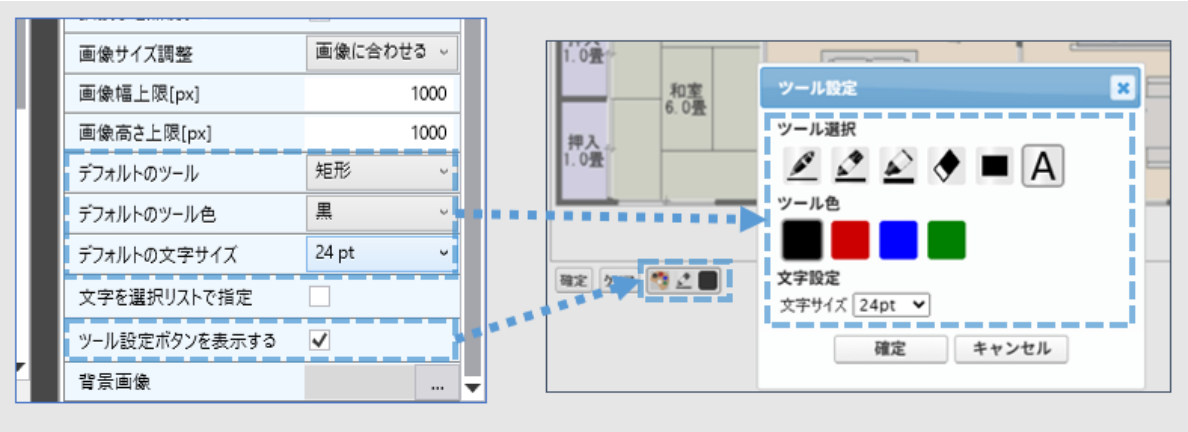


図 1.2.7-1 Studio 上のプロパティにおけるデフォルト値および表示設定とツール設定の反映箇所

1.2.8 カスタムルックアップ画面：カンマ区切りによる OR 条件検索に対応

カスタムルックアップ画面のテキスト形式の検索条件項目において、カンマ区切り入力による OR 条件検索が可能になりました。
Salesforce のレポート条件機能と同様に、慣れた操作感でレコードを検索できます。

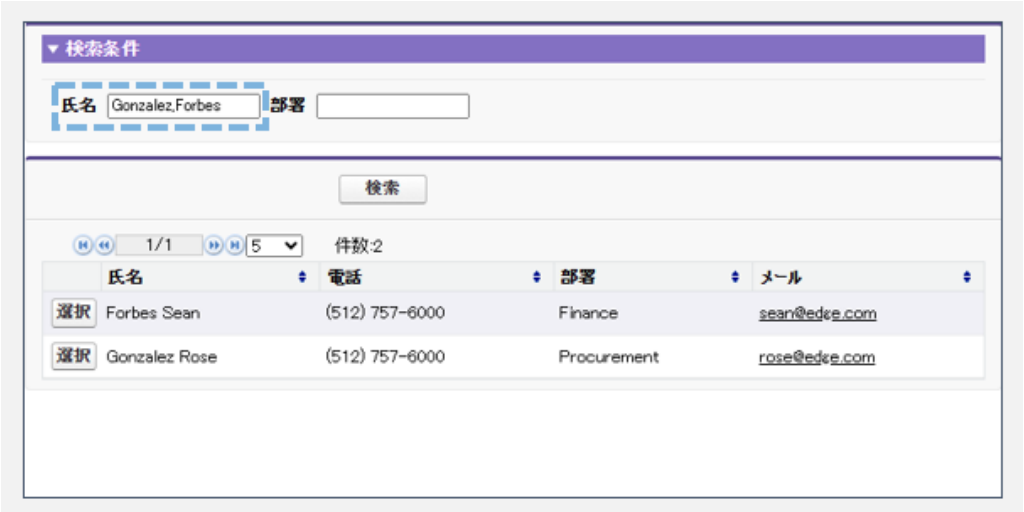


図 1.2.8-1 Salesforce 上のカスタムルックアップ画面におけるカンマ区切りによる OR 検索実行

2 お客様へのご案内

2.1 活用ガイド「SkyVisualEditor Navi」のご案内

SkyVisualEditor を新規にご利用いただくお客様、または新たに担当となられた方向けの活用ガイド「SkyVisualEditor Navi」を公開しました。
導入手順や製品基本情報はもちろん、お問い合わせ、ナレッジサイト、ヘルプドキュメントなど、各製品関連サイトへのリンクを集約しています。製品情報のハブページとしてご活用ください。

図 2.1-1 SkyVisualEditor Navi イメージ

3 免責事項

- 本リリースノートは 2025 年 6 月 20 日現在のものです。Salesforce および本製品は、定期的にアップデートされるため、記載内容と現在の動作が異なる場合は、現況を優先させていただきます
- SkyVisualEditor の利用規約については、こちらをご覧ください。
- 本リリースノートの内容は、将来予告なしに変更されることがあります。
- 本リリースノートの内容につきましては万全を期しておりますが、万一不明な点や誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたら弊社までご連絡ください。

製品サポート

製品情報

https://info.skyvisualeditor.com

お問い合わせ窓口

https://support.terrasky.co.jp/s/contactsupport

製品ヘルプドキュメント・ナレッジサイト

SkyVisualEditor ポータル ヘルプドキュメント
SkyVisualEditor VF ヘルプドキュメント
SkyVisualEditor LC ヘルプドキュメント
SkyVisualEditor ナレッジ

SkyVisualEditor Ver. 23.0 リリースノート
発行日：2025 年 6 月 20 日（第 1 版）

Copyright © TerraSky Co., Ltd. All Rights Reserved.